

第1回長門湯本温泉観光まちづくり推進会議 議事録	
日 時	2017年05月09日(火) 10:00~12:00
場 所	湯本観光ホテル西京 桐の間
出席者	<p>【推進会議委員】</p> <p>■大西委員長 ■荒川委員 ■坂倉委員 ■岩田委員 ■大谷委員</p> <p>■出席 ■伊藤委員 ■星野委員 □内田委員 ■小玉委員</p> <p>□欠席</p> <p>【事務局】</p> <p>■木村経済観光部長</p> <p>【デザイン会議委員】</p> <p>■泉委員 ■益尾委員 ■金光委員 ■矢儀委員</p>
配布資料	<p>資料1 長門湯本温泉観光まちづくり推進会議設置要綱(案)について</p> <p>資料2 長門湯本温泉観光まちづくり事業推進の方向性について</p> <p>資料3 長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議設置要綱(案)について</p> <p>資料4 長門湯本温泉観光まちづくり推進体制について</p> <p>資料5 平成29年度スケジュールについて</p> <p>資料6 景観ガイドラインのスケジュールについて</p> <p>資料7 民間投資促進に向けた取り組みについて</p> <p>資料8 公民連携事業について</p> <p>資料9 河川利用ワーキンググループについて</p>
決定・承認事項	
<p>1. 長門湯本温泉観光まちづくり推進会議設置要綱の承認</p> <p>2. 長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議設置要綱の承認</p>	
議事内容	
<p>1. 市長あいさつ</p> <p>■市長より開会挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長門湯本遊休地をいかに有効活用して長門再生につなげるかが課題である。 ・昨年4月に星野リゾートとの進出協定を結べたことは大きな一歩だが、まだ大きな遊休地が残っている、これをどう活用していくか。 ・日露首脳会談も含め、長門市の知名度は上がってきている、元乃隅稻成神社もGWには昨年2500台であったが、今年6000台に車が増えている。 ・こういった長門の魅力・資源をどのように活かしていくか、取り込んでいくか。 ・交流人口の増加が最も重要。 ・積極的な取組を支援のできる仕組みは出来上がってきている、この舞台をどう回していくかが推進会議の役割。 ・地域の様々な人と一緒に計画を進めていくことが重要である。 ・行政・地域・民間事業者が一体となった湯本温泉のまちづくりをしていきたい。 <p>2. 審議・報告事項</p> <p>(1) 審議事項1</p> <p>■事務局(木村経済観光部長)より資料1についての説明 →審議事項1の承認</p>	

(2) 事務局報告

■事務局（木村経済観光部長）より資料2について説明

大西委員長

- ・司令塔・デザイン監修に関しては公募を行い、内田委員が審査委員長となり審査・決定している。本日内田委員が欠席のため、荒川委員より決定理由の説明をお願いします。

荒川委員

- ・前まちづくり協議会会長岡田氏の代理で決定理由を報告する。
- ・50年前はどこにでもある温泉街だったが、今は温泉街らしさが全くなってしまう。
- ・ここが男性だけでなく、女性や家族連れも楽しめるような温泉街になって欲しいと考えた時に、今回決定したチームのプレゼンがオンリーワンの温泉地をつくれるのではないかと思い決定した。

大西委員長

- ・恩湯・礼湯を民設民営で検討していくという点について、泉源の所有者である岩田委員より意見をお願いしたい。

岩田委員

- ・民設民営は時代の流れだと思う、大寧寺も運営していくつもりはないし、行政による運営にも手詰まり感がある。
- ・心配な点もあるが選択さえ間違えなければ、民設民営でやれば活力が出てくると思う。
- ・問題の本質を見極めれば、民設民営が一番良い方向であると思う。

星野委員

- ・今回全体の計画の質の維持が一番大事で、計画が進むと様々な変更は出てくるが、特に温泉街の象徴である恩湯の質をどうやって維持するかが重要。
- ・進め方に異論は無いが、民設民営と公設民営の説明で公設民営がちょっと悪く書かれすぎている。
- ・公設民営にもメリットはある。
- ・一つ目は質の維持がしやすいこと、民設民営は収益性が第一なので質の維持が優先されないことがある。建物に坪単価をかけてくれない点が懸念される。
- ・二つ目は事業者の変更がしやすいこと。長期的には顧客満足度の獲得が重要であり、これには常に改善していくことが必要で、満足度が上がらない場合には事業者を変えるようなことが出来る。
- ・公設民営・民設民営互いにメリット・デメリットがあるということは認識しておく必要がある。
- ・目指す方向性は良いと思うが、バックアップの仕方として施設の所有という選択肢もあるので、質が維持できない場合は公設民営も想定するべき。

大西委員長

- ・一番重要なのは今回の条件に应运えてくれる事業者を探していくこと。
- ・民設民営でいくということをしっかり打ち出すことで、地元の事業者にもぜひこの機会に考えてほしいという思いも込めている。
- ・一つ一つの進め方は事業計画を見て決定していく流れになる。

事務局（木村経済観光部長）

・星野委員に出していただいた「質の維持」や「顧客満足度の継続」という要件をどう確保できるか、民設民営の中でもいろんな手法が考えられると思うので、これからご審議いただく専門家チームの検討の中で議論していきたい。

（3）審議事項 2

■事務局（木村経済観光部長）よりデザイン会議委員紹介及び資料 3 について説明
→審議事項 2 の承認

（4）デザイン会議からの提案

- 泉委員より自己紹介及び資料 4、5 の説明
- 益尾委員より自己紹介及び資料 6 の説明
- 矢儀委員より自己紹介及び資料 7 の説明
- 泉委員より資料 8 の説明
- 小玉推進会議委員より資料 9 の説明

星野委員

- ・今日話を聞いていて、今日本中で様々な観光地再生の取り組みがある中でも最強のチームになっていると感じた、良い取り組みになる期待感がある
- ・これも市長のリーダーシップによるもので、良いチーム構成に感謝している。
- ・社会実験という手法が非常に良い。計画だけだと分かりにくく、地元にも伝わりにくい所を伝えることができる。
- ・社会実験は大都市では一般的だが、地方の観光都市で取り組むことはほとんど無いので、このような取り組みは良いと思う。
- ・交通計画も重要だと考えている、車は観光ではマイナスになることも多く、海外でも制限しているところが多い。ツェルマット等車を制限することが集客に貢献している。言うだけでは不便を感じるが社会実験を通してそういったことを浸透することが必要。
- ・民設民営を目指すことは賛同しているが、恩湯・礼湯は決定的に重要なところで、長期的に見た時に事業者が破綻した時の撤退シナリオ（一定の条件で恩湯を市が買い戻す等）を提示しておくことができないか検討してほしい。過去、私が経験した案件においても、建物が抵当に入っており、施設を再開することも、壊すことも、売ることもない状況が続いて困ったことがある。

伊藤委員

- ・湯本温泉に一步入れば異次現・異空間というようなことが実現出来ればと個人的には思っている。ここに来れば幸せになれるような雰囲気作りが重要。
- ・また、大寧寺～三ノ瀬までのそぞろ歩きができることが重要。
- ・孝子・千代松の碑や餅つき地蔵、馬頭観音など湯本温泉独自の文化遺跡をブラッシュアップして活用したい。
- ・川床は念願。昔は「置き座」と言っていた。3m 四方で竹を使って作っていたのでこのような昔の事例も参考にしてくれれば。

荒川委員

- ・2月1日のWSでも出ている地元意見も大事にして欲しい。
- ・湯本、大寧寺、萩焼を一体に考えてもらえればと思っている。
- ・まちづくり協議会としても応援していきたい。

坂倉委員

- ・先日萩焼の面々で議論をした。
- ・マスタープランに登り窯があったが、モニュメントにはなるが使っていない登り窯はただの箱になってしまうし、あの場所で窯は炊けないので、ちょっと厳しいという意見が出た。
- ・今のところ、単発の協力は出来るが恒久的な関わり方にはまだ良いアイデアが出てきていない。もう少し時間をかけながら考えていくしかないかなと考えている。

泉委員

- ・事業者選択と破綻リスクはまさに検討が必要な事項。
- ・恩湯・礼湯は地域の宝なので、メリット・デメリットをしっかりと検討する必要がある。
- ・伊藤さんには川床の話は是非聞きたい。
- ・地域の方と一緒に将来のことをつくっていきたいと思っているので、荒川さんには是非ご協力頂きたい。
- ・萩焼の皆さんはアーティストなので、施設運営をお願いするのは違うと思う。新しい事業者さんが萩焼の魅力を事業に取り込んでいく時に協力して欲しい。

坂倉委員

- ・息子たちが萩焼を置くカフェを計画している。
- ・そういうものが発展していき連携が生まれればと思う。

岩田委員

- ・湯本温泉の今の計画は画期的でうまく進んでいく気がしている。
- ・湯本温泉のアイデンティティ、湯本温泉がどういう温泉かというイメージを確立して磐石なものとしてほしい。
- ・1428年から湯本温泉が整備されて今日に至っている。こういう歴史的な時間軸の中にあっただということ無くさないように。
- ・湯本温泉は神授の湯ということは特徴的なことであるので、これが商売にもうまく反映していけるようにしていってもらえれば。
- ・湯本温泉は「陪溪」と呼ばれていた、「陪溪十勝」というように言われている。
- ・大寧寺の温泉であったという史実を崩さないのであれば、後は思いきり自由にやってほしい

大谷委員

- ・長門市の交流人口を増やし、雇用を増やしていく長門の成長戦略の一環として、このような公共投資をやってもらえることは嬉しく思っている。
- ・まずは市内の広域化、そして萩、下関、岩国との連携にもプラスになる。
- ・地元の立場で言えば、星野委員も言っているが、質が重要なのでそこをしっかりと維持できるようなことはやってほしい。収益性だけの事業者ではない良質な事業者であれば地元も納得するのではないかと思う。
- ・また駅の移転はどこでも出てくる話題、電線地中化、舗装の高質化なども考えて頂ければありがたく思っている。

小玉委員

- ・山口県には大小 50 か所温泉地があり、泉質も温泉法に定める 10 種類のうち 7 種類があるが、外から見た時には温泉ブランド力は高くない。

- ・今回の星野リゾートの進出をきっかけとした、まちづくり計画の成功が長門市、ひいては山口県の温泉ブランド力の向上につながると思う。
- ・河川整備を含め、県としても積極的に参画し、できる限りの協力をしていきたいと思っている。

泉委員

- ・湯本温泉のアイデンティティは非常に重要だと思っている。どういう風に来街者の心に落ちるかはしっかり議論したいので岩田委員にもご助力頂きたい。
- ・もう一つは事業者に刺さるコンセプトもしっかり作っていききたいと思っている。

(5) 総括

大西委員長

- ・推進会議は四半期に一回持つということなので、デザイン会議でしっかり議論して頂いたことを、また次回の推進会議で確認出来ればと思っている。
- ・特に民間投資促進、情報発信は早急にしっかりと進めて参りたいと思っている。

事務局（木村経済観光部長）・次回は8～9月くらいで考えており、改めて日程調整はお送りする。

- ・これで推進会議を終了とする。